

千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第9週 (2/23-3/1) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		9週	8週	7週	6週
小児科		18	18	18	18
眼科		5	5	4	5
インフルエンザ		28	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数
「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市				千葉県	
		注意報	2/23-3/1	2/16-2/22	2/9-2/15	2/2-2/8	2/16-2/22
			9週	8週	7週	6週	8週
小児科	RSウイルス感染症		2	3	3	9	23
	咽頭結膜熱	○	4	2	3	1	31
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		46	53	70	44	465
	感染性胃腸炎		126	115	130	116	1,030
	水痘		2	4	7	4	54
	手足口病		1	1	0	1	12
	伝染性紅斑		6	11	11	12	65
	突発性発しん		7	15	10	12	51
	百日咳		0	1	0	0	2
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	1
	流行性耳下腺炎		4	3	6	4	33
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		194	198	255	469	2,049
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		2	3	4	2	21
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	2
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		1	0	0	1	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0	0	1	1	2

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(8件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	病原体等の検出	結核	男性	70歳代	病原体等の検出
結核	男性	50歳代	画像診断等	結核	女性	20歳代	IGRA検査
結核	男性	60歳代	病原体等の検出等	結核	女性	70歳代	病原体等の検出等
結核	男性	60歳代	画像診断	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	60歳代	病原体の検出

・結核7件(34)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(9)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

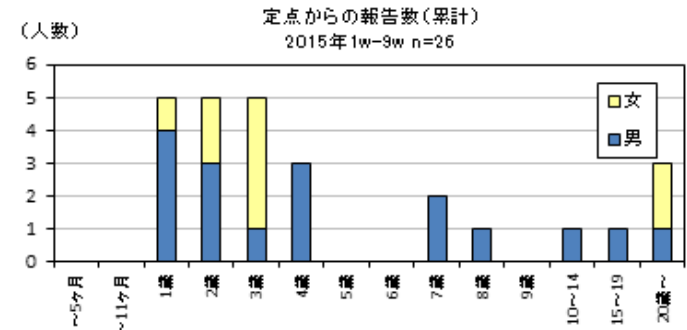
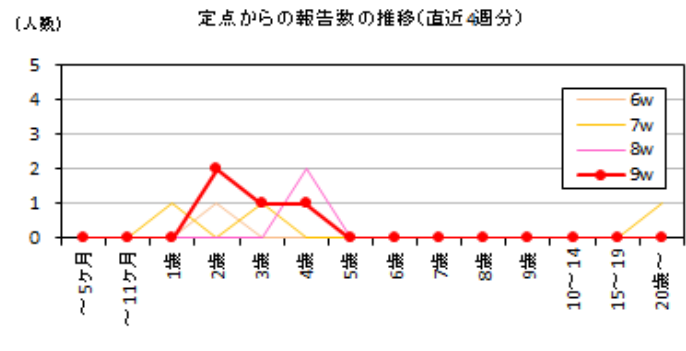
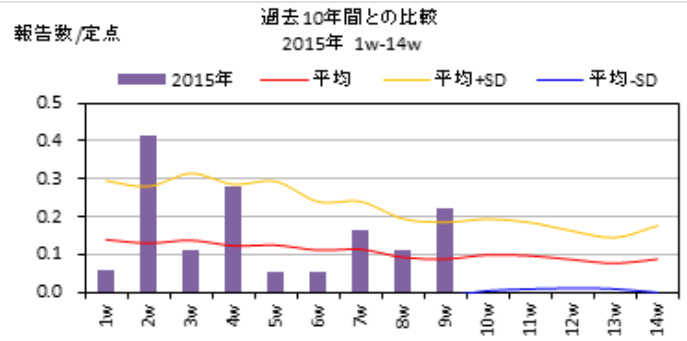
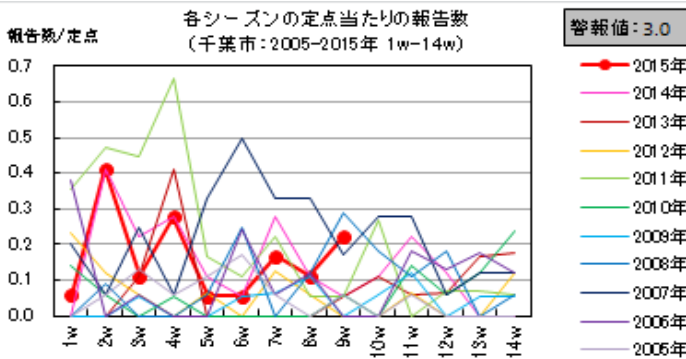
定点当たり報告数 第9週のコメント

＜咽頭結膜熱＞前週より増加し0.22となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

<咽頭結膜熱>

全国レベルの2015年第8週現在は、過去8年間の同時期と比べるとやや多めとなっています。都道府県別では、富山県、新潟県、鹿児島県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや少なめとなっています。千葉市の2015年第9週は、前週より増加し0.22となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、美浜区(0.75/定点)で最多で、同区の2歳～4歳で発生が報告されました。2015年第1週から第9週現在の累積報告数(n=26)によると、性別では男性が65.4%(17名)、女性が34.6%(9名)で、年齢階級別では1歳～3歳(それぞれ19.2%・5名)が多くなっています。



<梅毒>

全国レベルの2014年は、過去8年と比べて1.4倍～2.5倍の1220件で最多となりました。2015年第8週現在は、過去9年間の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、東京都、大阪府、神奈川県に多く報告されています。千葉県は4名で全国12位となっています。千葉市では2015年第9週現在、1件の届出があります。千葉市では、2012年から増加し2014年は17名で過去10年と比べて最多となりました。2014年の性別は男性が76.5%(13名)、女性が23.5%(4名)で、年齢階級別は20歳代が2名(11.8%)、30歳代が4名(23.5%)、40歳代が3名(17.6%)、50歳代が5名(29.4%)、70歳代が2名(11.8%)、80歳代が1名(5.9%)で、感染経路は異性間性的接触が7名(41.2%)、同性間性的接触が4名(23.5%)、不明が6名(35.3%)で、病型は早期顕症梅毒(Ⅱ期)が6名(35.3%)、晩期顕症梅毒が4名(23.5%)、無症状が7名(41.2%)でした。

